

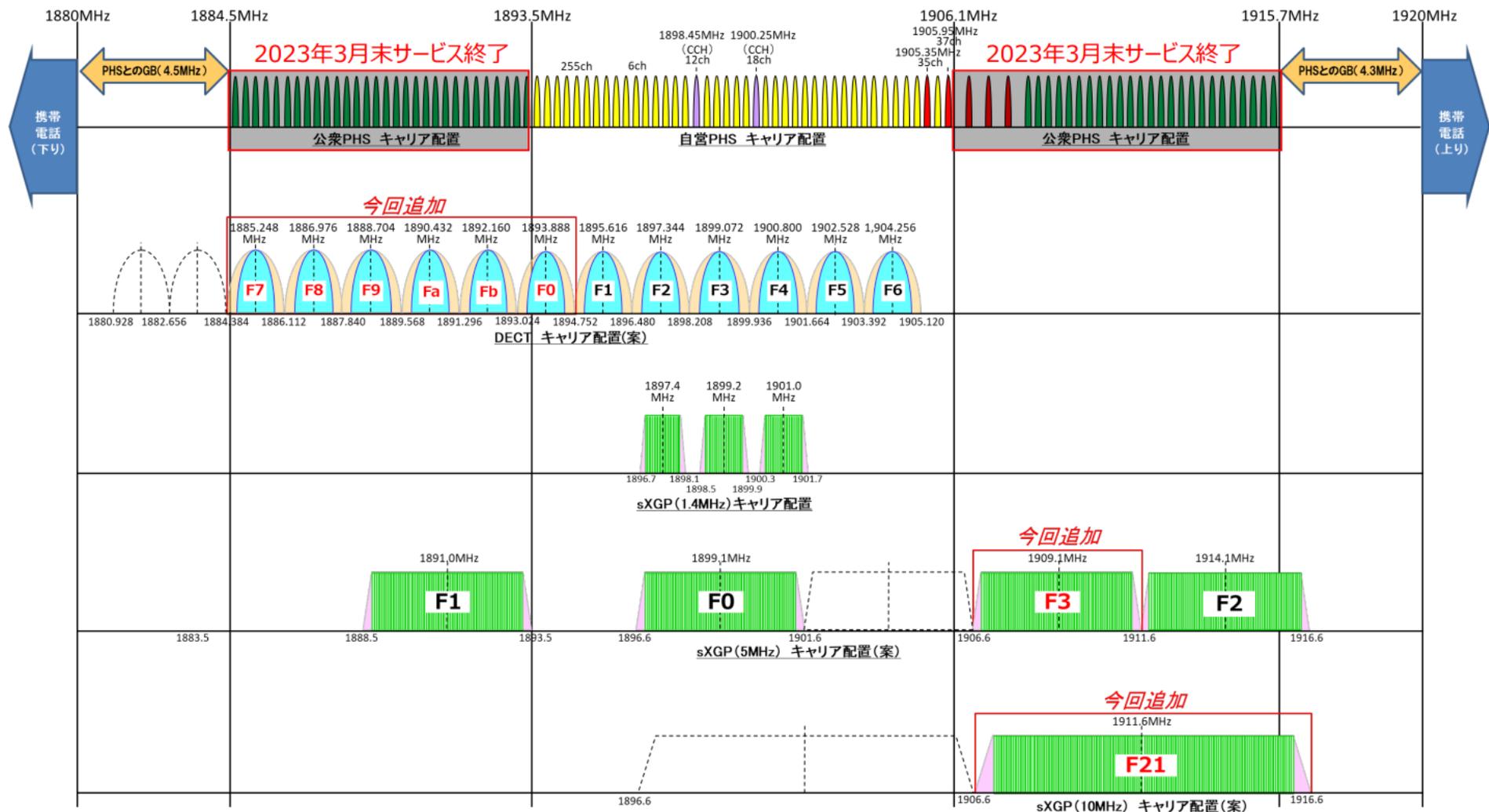
公衆PHSサービス終了に伴う携帯電話システムの 不要発射規定の見直しについて

KDDI株式会社

2023/4/24

デジタルコードレス電話の無線局の高度化

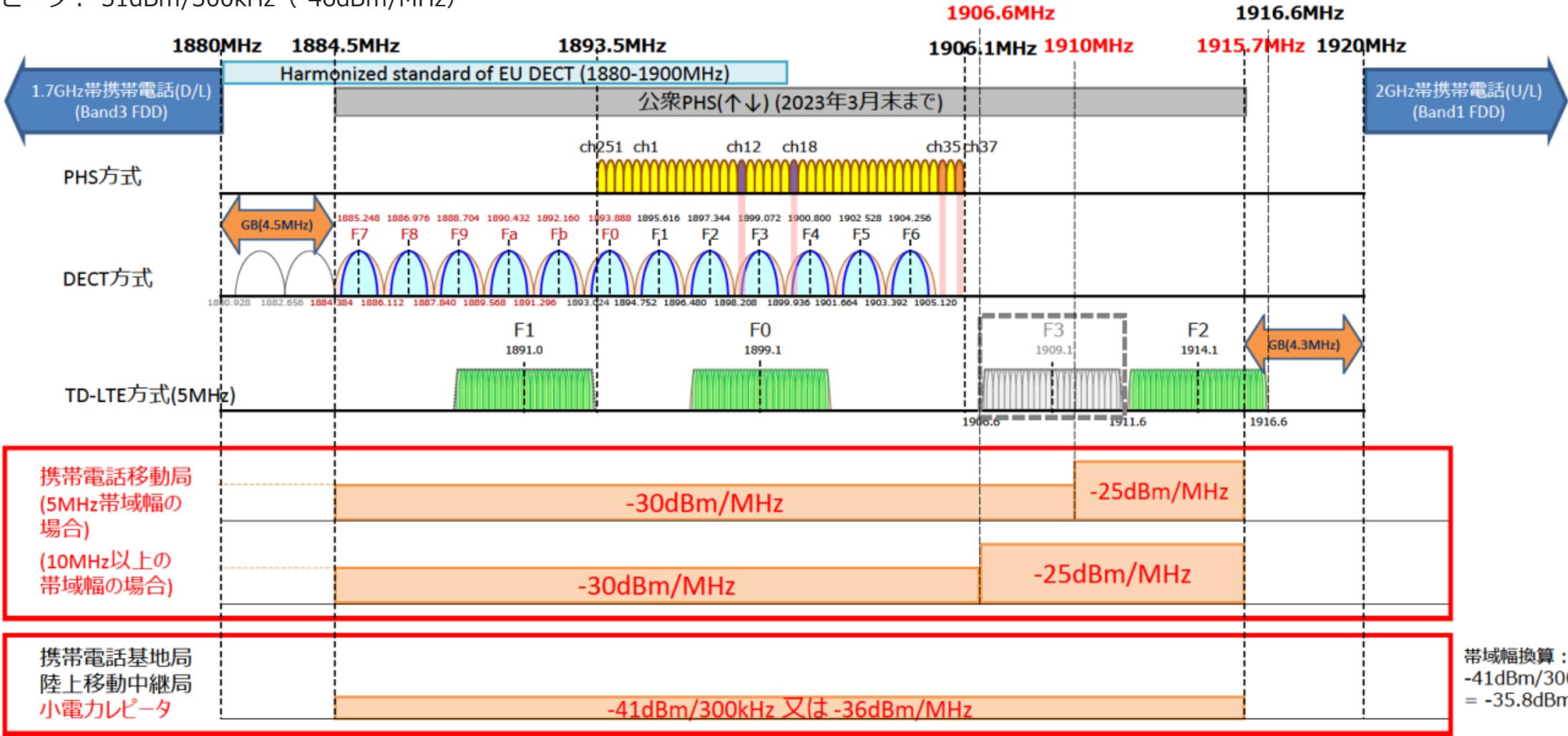
- デジタルコードレス電話（DECT/sXGP）の需要増や大容量通信への対応のため、当該システムに係る技術的条件の検討を陸上無線通信委員会で実施
- 技術的条件の検討では、携帯電話システムの公衆PHS保護が解除されることを踏まえて共用検討が行われたところ



共用検討を踏まえた携帯電話システムの不要発射規定緩和案

■ スプリアス発射の基本許容値や既存のPHS保護規定値をベースとした検討の結果、局種によっては既存の保護規定値※から一定程度の緩和が可能であることが示された

※ 基地局、陸上移動局、陸上移動中継局：-41dBm/300kHz (-36dBm/MHz)
 小電力レピータ：-51dBm/300kHz (-46dBm/MHz)



携帯電話システムの技術的条件改正案

- LTE-Advanced方式及びNR方式の技術的条件について、改正案は以下のとおり
- 移動局及び中継局上りについては2GHz帯の不要発射許容値を緩和するとともに、当該帯域以外の制約を撤廃
- 小電力レピータについて、下り回線の不要発射許容値を基地局等と統一

	改正案	現行
移動局	<2GHz帯 5MHzシステム使用時> 1910MHz以上1915.7MHz以下：-25dBm/MHz	<28GHz帯以外の携帯電話システム用帯域> 1884.5MHz以上1915.7MHz以下：-41dBm/300kHz
小電力レピータ 上り回線（基地局向け送信） 陸上移動中継局 上り回線（基地局向け送信）	<2GHz帯 10,15,20MHzシステム使用時> 1906.6MHz以上1915.7MHz以下：-25dBm/MHz <2GHz帯、28GHz帯以外の携帯電話システム用帯域> 1884.5MHz以上1915.7MHz以下：-30dBm/MHz ※スプリアス発射の基本許容値となり、帯域個別の規定は撤廃	<1.5G/1.7G/2GHz帯> 1884.5MHz以上1915.7MHz以下：-41dBm/300kHz
小電力レピータ 下り回線（移動局向け送信）	<1.5G/1.7G/2GHz帯> 1884.5MHz以上1915.7MHz以下：-41dBm/300kHz	<1.5G/1.7G/2GHz帯> 1884.5MHz以上1915.7MHz以下：-51dBm/300kHz

「つなぐチカラ」を進化させ、
誰もが思いを実現できる社会をつくる。

KDDI VISION 2030

